

丹家の先祖について

丹 了徹

予科3-8

航空4-3

(東村山市)



秩父104号に大河原次雄君の「大河原氏と国宝長船の名刀」が掲載された。

大河原君の祖先大河原氏は秩父出身の関東武者で丹党に属していた。大河原氏は秩父・児玉地方に勢力を張っていたが、承久の乱(1221)で功績を挙げ西国地頭として播磨の国に移封された。この記事を読んだ期友から、丹の祖先も丹党の関東武者ではなかったか、もしそうならば秩父との関連において是非、昔の話を書いてくれとの要望が出され、あまり確かな裏付けはないが、私の知っている範囲で昔の祖先が歩んできた歴史を書く羽目になった。

黒澤明監督の「7人の侍」の中の三船敏郎が演じた侍が後生大事に持っていた手書きの履歴書を思い出す。ただしその内容が真実かどうかわからない。シナでは王朝が変わる度にその前の王朝の歴史を書き直すと云われている。南京事件の書き直しはその一つであろう。武蔵七党は野盗族であったという説もあるので、入党するにも履歴書は必要としなかったに違いない。その意味で私の家の言い伝えも眉唾と思いつつ読んで戴きたい。

私は丹家の先祖が丹党の一員であったと伝え聞いているが、事実だったかどうかは確信が無い。私の父は自分の出身は秋田の佐竹藩であったと言っていたし、私の本籍

も秋田である。丹党の一員であったとも伝え聞いているが、なぜ丹党の祖先が佐竹藩に仕えたかも全く不明である。因みに私の祖父は秋田中学で剣道の先生をしていたと聞いている。

丹党は武蔵七党の一つであった事は埼玉の歴史資料館の資料にも残っている。

すなわち武蔵七党は、丹党、野與党、横山党、猪俣党、児玉党、西党、村山党の七党でそのほか丹治党、私立党、綴党、西野党を加える場合がある。関東の西北部を支配していたらしい。

丹党は第28代宣化天皇の子孫である多治比氏の後裔といわれているが、宣化天皇のご名代の檜前舎人直の後裔とする説もある。平安時代の708年に武蔵国で自然銅が発見され日本最古の貨幣である和同開珎鑄造が始まるが、その責任者に多治比氏が任命され、武蔵国に移住して国司として其の勢力を築いて行く。貴族の時代から武士の時代に移ると多治比一族は完全に武蔵の国に土着し、丹党と名乗り北関東に勢力を伸ばしていった。丹家もおそらくこの一族として栄えていったのではないかと思われる。丹党の一族には丹氏、加地氏、勅使河原氏、阿保氏、大関氏、中山氏、中村氏、大河原氏等が含まれていた。

しかし、丹党等の武蔵武士集団は南北朝時代に南朝側の新田義貞についたため新田氏の滅亡と共に弱体化していった。さらに、上杉禅秀の乱(1416)では禅秀に味方したので、丹党の内鎌倉公方の足利方に味方した阿保氏を除く各党は足利市に所領を没収されている。

丹家が佐竹藩に仕えるようになった経緯は不明であるが、おそらく、所領を没収されてから常陸地方に勢力を張っていた佐竹氏を頼っていったのではないかと推測される。

佐竹藩は元来、水戸で50万石の大名で

あったが、関ヶ原合戦の際、石田方に同情的だったと云うだけの理由で、関ヶ原合戦後20万石に減らされ、秋田に移封されたといわれている。しかも、徳川家康は藩主佐竹義宣を呼び出しておいて突然国替えを命じ、国元の水戸城に立ち寄ることも許さず、直ちに秋田に発てと追い立てるように秋田に移したと云われている。これは水戸に帰すと地主大名だから面倒になるとの思惑によるものであろう。

この怨みが佐竹家には累々と残り、戊申戦争の時、会津を中心とした奥羽の諸藩が連合した時、佐竹は情勢上この連合に加わった如く見せかけ、突然官軍側についたと云われている。

以上は伝え聞いた歴史であり、確実な資料に基づいたものでもなく、不明な点も多くはなはだ心許ないものであることをお許し願いたい。

(注：丹党の起源および没落の歴史については編集子がインターネット情報に基づいて加筆したことを付記する。)